

- 指 定 県教委 昭和57年度～昭和58年度
  - 研究主題
 

児童・生徒の健全育成を図るために、小・中学校の連携を深め、家庭や地域社会の協力を得るにはどうすればよいか。

エ 田島地区（小学校3校 中学校1校）
  - 指 定 県教委 昭和57年度～昭和58年度
  - 研究主題
 

自治力を育てるこことによって学校生活の充実をめざす生徒指導
- ③ 生徒指導対策研究協議会
- ア 目 的 各管内における生徒指導上の諸問題について対策を研究協議し、生徒指導の強化充実を図る。
  - イ 期 日 各教育事務所毎及び市町村教委毎に年3回実施
  - ウ 対 象 小・中学校教員・生徒指導委員・市町村教育委員会職員
- ④ 生徒指導推進会議
- ア 目 的 児童・生徒の非行の増加にかんがみ、生徒指導上の諸問題について、研究協議を行い学校、家庭、地域が一体となって指導をする体制を強化とともに、学校における生徒指導の充実に資する。
  - イ 期 日 昭和57年7月14日（水）
  - ウ 会 場 県庁
  - エ 参 加 者 市町村教委教育長協議会長、県校長会長、教頭代表、補導関係機関代表、青少年婦人課長、生徒指導担当指導主事、指導委員
- ⑤ 生徒指導委員の設置

管 内	地 区	勤 務 校	職 名	氏 名
県 北	福 島	野 田 中	教諭	遠 藤 幸 吉
	伊 達	醸 芳 中	教諭	山 本 雄 三
	安 達	大 玉 中	教諭	安 斎 健 一
県 中	郡 山	郡 山 一 中	教諭	黒 沢 利 雄
	岩 瀬	須 賀 川 二 中	教諭	金 田 武 士
	石 川	泉 中	教諭	金 田 志 朗
	田 村	船 引 中	教諭	橋 本 吉 雄
	西 白	白 河 二 中	教諭	鈴 木 行 正
県 南	東 白	棚 倉 中	教諭	佐 藤 碩 芳
会 津	会 津 若 松	若 松 四 中	教諭	田 部 貞 光
	耶 麻	喜 多 方 二 中	教諭	加 藤 崇
	兩 沼	高 田 一 中	教諭	坂 内 康 一
南 会	南 会 津	田 島 中	教諭	星 利 弘
相 双	相 馬	原 町 二 中	教諭	渡 邊 傳 衛
	双 葉	富 岡 一 中	教諭	前 田 英 明
い わ き	い わ き	豊 間 中	教諭	山 内 正 次
		白 水 小	教諭	湊 靖 男

### (3) 進路指導

#### ① 進路指導講座

##### ア 目 的

中学校の教員に対して、進路指導に必要な専門的事項について講習を行い、中学校における進路指導の充実を図る。

イ 主 催 福島県教育委員会

ウ 講 師 東邦銀行人事部次長

金 沢 亨

ヨークベニマル業務本部長

吉 村 一 夫

##### エ 講習内容

○ 進路指導の理念

○ 進路指導の諸活動

○ 学級における進路指導

##### オ 期日・会場等

期 日	会 場	人 数	参 加 者
8月30日	福島東高校	43名	進路指導主事
8月31日	富岡高校	67名	進路指導担当者
9月6日	安積第二高校	81名	学級担任等
9月7日	会津女子高校	58名	

#### ② 県教委指定進路指導研究学校の研究と実践

ア 浅川町立浅川中学校（校長 草野 栄寿）

○ 指 定 昭和57年度～58年度

○ 研究主題 能力の伸長をはかり、個々の適性に応じた進路指導

イ 会津坂下町立第二中学校（校長 佐藤 聰）

○ 指 定 昭和57年度～58年度

○ 研究主題 一人一人に自己を正しく見つめさせ、生きがいをもたせる進路指導

## 6 特 別 活 動

#### (1) 昭和57年度指導の重点

特別活動のもつ教育的意義や価値を正しく認識し、自校の教育目標の達成を目指しながら、実態に即して特色のある教育活動がなされるよう工夫する。

特に、児童生徒の自主的、実践的な集団活動を助長するよう「なすことによって学ぶ教育活動」を中心に指導の充実を図るために、次の事項を重点として設定した。

① 集団活動をより充実するため、指導計画を実態に即した創意あるものに改善する。

② 児童生徒による自主的、実践的な活動がより充実するよう、指導法の改善に努める。

③ 各内容ごとに指導の重をあげ、その充実を図る。

#### (2) 主な研修及び行動

① 県小学校教育研究会、特別活動部会

ア 主 催

県教育委員会、県小学校教育研究会、開催市町村教育委員会

イ 研究 主題

所属する集団の一員としての役割を自覚させ、自発